

西アジアの平和と反戦サミットの開催を

ニコラス・マドゥーロ・モロス（ベネズエラ・ボリーバル共和国 大統領）

大統領声明、2025 年 6 月 23 日

会議

敬愛する皆さま、

皆さまに、ベネズエラ・ボリーバル共和国の国民および政府からの友好の挨拶とともに、平和、軍縮、国際法の尊重を国際社会における共存の基本として強く支持する私たちの立場をお伝えいたします。

現在、西アジア地域の情勢は、極度の緊張と暴力の段階に突入しております。イスラエル国家によるイラン・イスラム共和国への攻撃の激化、さらにアメリカ合衆国によるイラン領土への軍事攻撃により、地域および世界に核兵器問題の性質を持つ壊滅的な結果をもたらしかねない危機が引き起こされようとしております。

これに加えて、イスラエルが未申告の核兵器を依然として保有し続け、国際原子力機関（IAEA）の査察体制への参加や核不拡散条約（NPT）への加盟を頑なに拒んでいる事実があります。このようなことを引き続き許すことは、集団的安全保障にとって深刻な脅威であり、多国間体制の原則を根本から損なうものです。

このような状況を受け、ベネズエラは、グローバル・サウスの諸機関、すなわち非同盟諸国運動、アラブ連盟、イスラム協力機構（OIC）、湾岸協力会議（GCC）、アフリカ連合、BRICS、ラテンアメリカ・カリブ海諸国共同体

（CELAC）、その他の地域機関に対し、西アジアにおける即時かつ完全な停戦を共に推進するよう、緊急に呼びかけるものです。

この停戦の呼びかけは、対話、法的正当性、国家間の主権尊重を基盤とする包括的な政治的解決に向けた第一歩となるものです。

そして、差し迫った脅威に直面している今、謹んでご提案申し上げたいのは、「平和と反戦のためのサミット」の招集であります。このサミットは、人類を核戦争という深淵に引きずり込むおそれのある、拡大する戦争の危機に対処するため、できる限り速やかにこの地域の一国で開催されるべきであると考えます。そうすることで、当事者の直接的な参加を確保し、地域としての平和への明確な意思を世界に示すことができるからです。

このサミットは、アラブ連盟、イスラム協力機構、湾岸協力会議、そして BRICS が共同で主導し、中華人民共和国およびロシア連邦といった平和を重視する世界的な大国の協力のもと、グローバル・サウスの多国間主義と平和に献身するすべての国々の積極的かつ完全な参加をもって開催されるべきであると考えます。

また、サミットの成果の一つとして、西アジア地域における「非核地帯」の創設を推進し、イスラエルに対して核兵器の即時的な廃棄を求める安全保障理事会の仕組みを確立することも提案いたします。イスラエルの秘密核兵器は、地域と世界の安定に対する重大な脅威であるためです。

1958 年、冷戦のさなか、旧ソビエト連邦は、国連総会において「中東および近東地域」を核兵器のない平和地帯とする最初の提案を行いました。これは、非拡散と平和的協力に基づく地域統合を唱えるものであり、地域の非核化に向けた最初の多国間적取り組みとして記憶されています。

また、1974 年 12 月にはイランが、エジプトとの共同提案で、国連総会にて「中東における非核地帯の設置」に関する最初の決議を提出し、反対票なしで採択されました。

それ以来、国連はこの決議を定期的に再確認し、西アジアにおける非核地帯の設立に対する国際的な歴史的コンセンサスを明確に示してきました。いまこそ、このコンセンサスを改めて確認し、現実のものとするのが喫緊の課題です。

さらに、我々は、国連決議に基づき、パレスチナ問題に対する公正な解決なしには地域の恒久的平和はありえないことを強調いたします。国際社会は、パレスチナ人民に対する東エルサレムを首都とする主権国家の権利、および難民の帰還権を認めなければなりません。

ベネズエラは、国際法の尊重と国家間の主権平等に基づく包摂的なアプローチこそが、西アジアにおける真の平和を保障する唯一の道であると確信しております。

この呼びかけに耳が傾けられ、国際的な強いコンセンサスの構築につながり、戦争を止め、核の脅威を抑え、公正に支えられた平和の枠組みを築く一助となることを信じています。

私たちの諸国民は、戦争を止め、国連の原則に基づいた持続可能な平和を構築することを望んでおります。世界のすべての地域で、人類の存続を守るため、私たちは責任ある集団的行動をもはや先送りすることはできません。

皆さまのご理解とご協力に、私の最も深い敬意と感謝を申し上げます。

署名

ニコラス・マドゥーロ・モロス

ベネズエラ・ボリーバル共和国 大統領